

平成 30 年度 記者懇談会（第 1 回）の記録

- 日 時 平成 30 年 4 月 25 日（水）午後 3 時 00 分
場 所 水道庁舎 4 階 会議室
記者数 5 人
同席者 飯川副市長、若山副市長、総務部長、企画財政部長
次 第 1 平成 30 年度工事発注計画について
2 第 6 期岩見沢市総合計画について
3 その他について



1 平成 30 年度工事発注計画について

説明内容

（市長）

それでは、平成 30 年度の工事発注計画についてご説明申し上げます。

全国的な月例経済報告では、「景気は、緩やかに回復している」。さらに、北海道の経済動向におきましても、全体的に「持ち直している」とされているところでございます。

岩見沢市の経済情勢でございますが、これまで厳しい状況が続いておりましたが、やや少し好転しつつあると認識しているところでございます。

このような状況を踏まえた中で、地域経済を支え、活性化を図るとともに、地域の雇用対策といった観点からも、市民生活の基盤を支える公共事業に関する予算を積極的に確保したところでもございます。

そこで、今年度発注する予定の工事費についてでございますが、一般会計、企業会計を合わせて、約 84 億 6,200 万円となっております。

その内訳でございますが、資料にございますとおり、一般会計では 44 億 3,200 万円、企業会計では 23 億 2,700 万円、昨年度予算の繰越分が 17 億 300 万円となっております、平成 29 年度の 99 億 7,400 万円と比較いたしますと 15 億 1,200 万円の減となったところでございます。

平成 30 年度の新規事業としましては、主なものとして、東小学校の大規模改修に約 3.9 億円、稲穂児童館の改築に約 1.9 億円、市内中学校のトイレ改修に約 1.1 億円、5 条東団地の改修に約 1.4 億円といったところでございまして、市民の安全・安心な暮らし、さらには、子ども・子育て支援の充実に加えまして、地域経済の活性化に取り組んでまいりたいと考えております。

次に、上半期の工事発注率でございますが、今年度につきましても地域経済の活性化の観点から、できうる限り早期の発注に努めてまいりたいと考えております。

4 月から 9 月までの上半期に発注する工事費の目標額は、発注予定額で総額約 83 億 5,400 万円、発注率 98.7%を目標にしております。

この発注率は、平成 29 年度の目標値 97.8%と比較いたしますと、0.9 ポイントの増となったところでございます。

引き続き、発注率を高く設定いたしまして、市民生活の基盤を支える意味からも、工事の早期実施を通じて地域経済への波及効果が発揮されるよう、この数値を可能な限り達成することによって、雇用・景気対策に努めていく方針でございます。以上でございます。

質疑応答

(北海道新聞)

冒頭で市長が、市内の景気も「やや少し好転しつつある」とおっしゃいましたが、これを裏付けるデータはありますか。

(市長)

空知信用金庫の景況判断でも上向き、あるいはそういう要素があるということで評価されていますし、市税収入等を見ますと、償却資産の伸びと個人住民税の伸びが見られるというところです。とくに償却資産の伸びにつきましては、

工場の拡充などが発生していますので、今までよりは、やや好転しつつあるのかなという認識です。

2 第6期岩見沢市総合計画について

説明内容

(市長)

それでは、お配りいたしました「第6期岩見沢市総合計画ダイジェスト版」でご説明をしたいと思います。

はじめに2ページでございます。

平成30年度からスタートする新しい総合計画でございます。

この計画は、平成27年4月から施行いたしました「まちづくり基本条例」を根拠として策定される初めての総合計画でありまして、市政における最上位計画であるとともに、条例の基本理念であります「情報共有・参加・協働」のもとに、市民主体による自主自立のまちづくりの実現に向けた、まさに「まちづくりの羅針盤」という言い方もしますし、「まちづくりの道しるべ」という言い方もしているところでございます。

計画の策定にあたりましては、アンケート調査、ワークショップの開催、パブリックコメントなどにより、市民の皆さまからの多くのご意見、ご提案をいただくとともに、総合計画策定市民会議では8回、また、岩見沢市議会の総合計画・地方創生特別委員会におきましては7回のご議論をいただき、それらを反映して策定したものでございます。

次に、資料の3ページでございます。

総合計画を推進するにあたりまして、「市民主体による協働のまちづくり」、「地域特性を活かした魅力あふれるまちづくり」、「次世代につなげる持続可能なまちづくり」、以上を基本的視点として定めまして、今後のまちづくりを展開してまいりたいと考えております。

次に、「将来の都市像」につきましては、総合計画策定市民会議において協議を重ねていただきました中で示されましたご提案を尊重し、10年先を見据えた本市の目指すべき姿を「人と緑とまちがつながり ともに育み未来をつくる 健康経営都市」と定めたところであります。

一人ひとりの健康づくりを通じて、まち全体の健康を高めていくことにより、活力ある地域社会の創出へとつなげていこうとする「健康経営」の考え方のもとに、誰もが健康で心豊かに暮らすことのできるまちづくりを目指すことといたしました。

次に、資料の4ページ、5ページでございます。

総合計画の全体像のイメージとなっております。

将来の都市像の実現に向けまして、3つの「まちづくりの基本的視点」のもと、6つの「基本目標」を達成するための基本施策と取組方針を定めたところでございます。

次に、6ページでございます。

6 ページ以降は、6 つの基本目標についてまとめた資料となったところでございます。

1 つ目の基本目標であります「地域で支え合う 安全・安心なまち」につきましては、まちづくりの基本である「安全・安心」につきまして、地域防災力の向上や冬期間の安全確保、消防・救急体制の充実などにより、市民が安心して暮らすことのできるまちづくりを進めるとともに、主体的なまちづくり活動に対する支援や男女共同参画社会の実現に向けた環境整備を進めることを目標としております。

2 つ目の基本目標であります「みんなが健康で元気に暮らせるまち」につきましては、誰もがいつまでも健やかで生き生きと暮らすことができるように、市民の健康づくりや高齢者・障がい者福祉、地域医療の充実に努め、地域全体で市民の元気で健康な生活を支える「健康コミュニティ」を推進することを目標としております。

次に、資料の 7 ページでございます。

3 つ目の基本目標であります「活力と賑わいに満ちた 魅力あふれるまち」でございますが、関係団体や事業者とも連携をし、農業・商工業の振興を図るとともに、新産業の創出、企業立地を推進し、雇用の拡大に努めること、また、観光の振興や中心市街地の活性化を通じた賑わいの創出を図るとともに、多様な施策の展開により移住・定住も促進することを目標としています。

4 つ目の基本目標でございますが、「豊かな心と生きる力をはぐくむまち」でございます。地域全体で子どもの健やかな成長を支えるとともに、未来を担う子どもたちの豊かな心と優れた知性、生きる力を育む社会を創ることや、生涯学習の充実と芸術文化・スポーツに親しむことのできる環境づくりも進めることを目標としております。

次に、資料の 8 ページでございます。

5 つ目の基本目標であります「自然と調和した 快適で暮らしやすいまち」でございますが、利便性の高い市街地、快適な居住環境の形成、道路・橋りょうの適正な整備と維持管理、公共交通の利便性の向上、上下水道の適正な運営、緑豊かな自然環境の維持・保全、さらには循環型社会の形成を推進すること、そして、本市の強みである高度 ICT 基盤を活用して地域課題の解決に取り組むことなどを目標としております。

6 つ目の基本目標であります「市民とともに創る 持続可能で自立したまち」でございますが、市民と行政との協働によるまちづくりの推進に向け、積極的な情報発信の充実と市民の皆さまが市政に参画する機会の拡充を図ること、行財政改革の取組みを進め、持続可能な行財政基盤の確立を図ることを目標としております。

以上が新しい総合計画の全体像でございますが、将来都市像として示した 10 年後の「目指すべき姿」の実現に向け、未来を見据えた歩みを着実に進めてまいりたいと考えております。

なお、今日お配りしております総合計画の概要版につきましては、広報 5 月号と併せて全戸に配付するとともに、本編につきましては市のホームページに掲載をいたします。

以上でございます。

質疑応答

(プレス空知)

計画をホームページにアップするのは、今日の記者懇談会が終わってからとということでしょうか。

(企画財政部長)

この後です。

3 その他について（記者からの質問）

質疑応答

(HBC)

JR 室蘭線の関係ですが、先月は各沿線自治体の広報誌で利用促進策みたいなものを載せていて、今月は「くりやま老舗まつり」で臨時列車を出すということで、実際に話を聞くと、結構利用が高かったということで一定の成果が見られたのかなと思います。今後ですね、こういった JR の利用促進策とか、あと去年から言われていた苫小牧側との協議、この辺については今年度どのようになっていくでしょうか。

(市長)

全体的なスケジュールとして、8 月くらいまでに一定の国の支援策、あるいは北海道も含めた新しい提案なども出てくる予定になっておりますので、その動向を十分把握した上で対応してもらいたいと思っています。それから、胆振地方との関係につきましては、安平町が窓口になっておりますので、そこもしっかり連携をとって、近々連休明け位になるのかもしれないけれども、関係自治体の、胆振も含めたですね、事務協議といいますか、そういったことも予定しているところでございます。それから、栗山などの事例なども状況を聞いておまして、岩見沢で乗って栗山で降りるという利用のされ方と、追分方面から乗って栗山で降りられる方ということで、一定の乗降客数があったということでございます。今回、室蘭線につきましては、物流という観点が新たに基本方針の中で明記されておりますので、その観点も含めていろいろ協議を進めていくということになろうかと思っています。

(HBC)

その中でも、道議会に JR の部長が呼ばれたときの話で、沿線自治体を上下分離にして金銭的な支援を求めたいとおっしゃってた訳ですけど、その辺のやり取りは。

(市長)

上下分離ということで、例えば、鉄路を自治体が持つという上下分離はもうないというように私自身は認識をしています。別の形でどういう連携をして維持をしていくのかというのは具体的にはこれからの話になるんだろうなと思っています。

(北海道新聞)

最近ですと、例えば、介護保険料 25 万円の過請求とか、昨日は水道料金のミスがあったんですけども、その発表が早くなつたかなと感覚的には思っているんですけども、人為的なミス、チェック不足ってところが際立っていて目立つのですけれども、市長として、この 1 か月間であったミスをどのように受け止めていますか。

(市長)

介護保険料につきましては、チェックが十分でなかったと私自身も認識をしていますけれども、昨日皆様にご報告した水道料につきましては、納付書を発布するにあたって、チェックした上で読み取れるケースと読み取れないケースがあったと。バーコードのコンビニ収納の関係ですけど、同じお店でも読み取れたケースもあれば読み取れなかったケースもあつたりするので、今、その原因特定についてはまだ調査中ですが、むしろ、新聞の皆様のお力も借りていち早く市民に周知をするということを最優先にしたところでございます。当然のことながら、誠意をもって対応させていただくことが大前提でございます。

(北海道新聞)

他の部署、例えば、市教委で昨年ミスがあったとき、ダブルチェック体制をするというお話がありましたが、1 つの部署で起きたミスの再発防止策を他の部署に共有化ということは。

(市長)

その点についてはかねてから申し上げておりますし、4 月から具体的な作業に入っていますけれども、「内部統制」ということで主にリスク管理とマネジメントの強化に取り組んでいるところです。どこにリスクが潜んでいるのか、そのリスクをどう解消していくのか、事前にどうチェックするのか、それも含めて今、事務作業ごとのチェックを各部でやっているところでございまして、そういったものをマニュアル化しながら全体で共有して事務の適正な執行の確立を目指していきたいというところでございます。

(北海道新聞)

いつ頃、マニュアルみたいなものが出来上がるのですか。

(市長)

「内部統制」は平成 32 年までにやることになっています。私ども、基本方針を定めて、市町村の場合は努力義務なんですけれども、一定の作業を進めて、その検証結果などを議会に報告できるように、これから最終的に全体像として取りまとめるのは、平成 32 年かな。

(総務部長)

平成 32 年 3 月には、完璧なものにはなろうかと思います。

(北海道新聞)

平成 32 年 3 月までに。

(飯川副市長)

取組みはスタートしましたので。

(北海道新聞)

スタートしながら策定していているというような。

(市長)

岩見沢市としては、内部管理を組織のマネジメントシステムに組み込むんだと。その一番重要なところはリスク管理とコンプライアンスだと。そこで今、実際リスクが、今まで起きたことも含めて、どういうリスクがあるのか。例えば、健康福祉部などいろいろな事務に関するチェック項目が 1,000 項目は優に超えるような調査も行っておりますけれども、そういったものを形にして残して、そして、その全体を取りまとめるということで。同時並行で、そういったものを策定に向けて取り組む中で、そのリスクも減らしていくと。リスクを管理していくと。まずはどういったリスクがあるのか。それは人為的なリスクもあるでしょうし、システム上のリスクもあるわけですから、そういったものを全て明らかにしていこうということでございます。

(北海道新聞)

そうやって取り組んでいる中でも、例えば介護保険料であるとか、去年から言えば水道料金の徴収漏れとかそういったことがあったわけなんですけれども。

(市長)

水道料金の徴収漏れは、過去ずいぶん前にさかのぼってから、いろいろ事象が重なっていたという状況でございました。その都度、全体で情報共有しながら、リスク管理につきましても、「内部統制」に関する組織も作りまし、それでしっかりやっていこうと思っています。

(北海道新聞)

「内部統制」の組織とは。

(飯川副市長)

「内部統制検討委員会」というのを昨年立ち上げて、そこで 3 月の基本方針を出して、4 月からスタートをかけたということです。

(プレス空知)

今の延長で確認したいのですけれども、平成 32 年 3 月までに「内部統制」のマニュアルやシステムをちゃんと作って、翌 32 年の 4 月からそれを本格的に運用しようということだと思っておりますけれども、この先まだ 2 年ありますから、どこかで職員がやってらっしゃるリスク管理と、どういうリスクがあるのかという作業とか、現状こういう作業をやっているんですよ、と。ここまでやればあとは残りは内部の部分、これはどういうふうに運用しようかというような作

業になるわけなんですけど。中間段階で記者懇談会を利用して状況を示していただけたらとか、そのようなことは考えていらっしゃいますか。

(市長)

「内部統制」の制度自体が、都道府県でも始まったところと始めてないところもまだあるような状況ですので、私どもはできるだけ早く市町村で、努力義務ですけれども、それを確立したいということで取り組んでまいりますので、必要あればお知らせをするということにしたいと思います。

(プレス空知)

というのは、先ほど北海道新聞の記者の方からもありましたけれども、ここ数年、いわゆる人的ミスというところでの、影響額としてはそれほど大きくはないのかもしれないのですけれども、いろいろと続いていたというところからいけば、努力義務であったとしても他の自治体に先駆けて先進的に取り組むという姿勢を見せていき、その中間報告と言うか現状ここまで来てるんですってということを見せていくっていうのをどうかな、と。

(市長)

まずは各担当職員、部単位で、どういう事務があってそこにどういうリスクがあるのか。1つの事務に対して、いつの段階でどういうリスクがあって、それに対してどういう解決をするんだっていうのが、今、まとめさせていますので、まずはそれがまとまってからの議論になるかと思いますが。

(プレス空知)

皆さん、公務事務のプロでしょうから、ある程度何年も触ってらっしゃる方たちばかりでしょうから、その部分はそれほど多くの時間がかかる必要があるのかな。あらためて再点検ということは必要なんでしょうけれども。

(市長)

1つはですね、再点検が必要なのと、事務が非常に細分化されているということと、それから1つのミスが起きたときに影響が広範囲に及ぶ。とくにシステムを使ってやっている場合ですね。それが一気にやって来る。ですから、作業をする前と作業が終わった後にどういうチェックを入れるのか。どういう入れ方があるのか。単にチェック表だけでは済まないところもありますので、そこを今しっかり検証させているところです。

(プレス空知)

目途としては、それはいつぐらいまでにそれをしなさいよ、っていうようなことで各部課に、検討委員会では話しているんですか。

(総務部長)

細かいスケジュールをお教えしましょうか、後ほど。

(プレス空知)

後ほどというか、今この場でできれば。

(総務部長)

資料を持ってきていませんので。

(プレス空知)

いや、大まかにかまわないんですよ。例えば、平成 30 年度中にその部分を各部から検討委員会に上げてもらって、少なくとも平成 30 年度にどこまでするのかあってところをわかればなと思います。

(総務部長)

リスクの項目を 1 回拾い上げた上で、どこまで盛り込めるかというのが平成 30 年度の仕事になりますね。

(プレス空知)

で、最終年度の平成 31 年度中にしっかりと最終作業をするということですね。

(北海道新聞)

空知の周辺の市町よりも人為的ミスが頻発しているように感じるのですけれども、その原因と責任をどのようにお考えか、お願いします。

(市長)

ミスは起きるべくして起こしたケースと本当にミスとして起きたケースという事案が分かれるのだと思いますけど、私の基本的な考え方は、こういうことについてはできるだけ速やかに公表して、その後の再発防止にその都度努めていくというのが姿勢でございまして。他の自治体がミスが起きてるのか起きてないかはわかりませんが。

(北海道新聞)

再発防止に努めることで責任を果たしていきたいということですか。

(市長)

もちろんそうです。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)